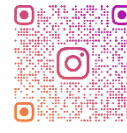


発行:(公財)オイスカ西日本研修センター まるごと部
福岡市早良区小笠木 678-1

TEL(092)803-0311 FAX(092)803-0322

E-mail: oisca@oisca.org 検索 [オイスカ西日本](#)



@OISCA_NTC

Instagram



facebook

日頃の様子を更新中!是非チェックお願いします!

2026年新年行事体験



今年度の研修生も、日本の年末年始行事を色々体験しました。

年末の30日からホームステイを兼ねて、鹿児島県の三宅農場(養鶏農家)に研修生全員で訪問し、楽しく賑やかな年末年始を過ごしました。

1月5日には仕事始めとして、福岡の住吉神社、護国神社、横山神社に三社参りをし、それぞれが今年に向けての願いをしました。

1月11日には、地元脇山の行事で、ほうげんきょう(どんと焼き?)に参加し、高く積み上げた竹を燃やす壮大さに驚き

と日本の文化を体験。小雪降る中ではありましたが、暖かいお汁粉を頂きながら楽しみました。(廣瀬)



異動のお知らせ

この度、オイスカ本部より異動の発令があり、令和8年4月1日より下記の通り新体制となります。

所長：豊田敏幸(元 西日本研修センター副所長)兼、西日本支部事務局長

副所長：立石善明(元 西日本研修センター研修課長)

西日本支部事務局長次長：満川善雄(元 西日本支部啓発担当主任)

廣瀬兼明につきましては、4月1日よりオイスカ海外事業部付け、インドネシア共和国駐在代表として赴任いたします。

オイスカに来て13年余り、西日本研修センターで所長を務めさせていただきましたが、多くの皆様の助けを受けて全うすることが出来ました。

会員及び関係者の皆様、また、地元脇山の皆様には心より感謝申し上げます。今後、オイスカ活動がより一層広まりますよう引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ありがとうございました。



外部研修

1月に入ってからせんぱい研修生に対し、アクションプランの作成を見越したうえで、センターでは研修が出来ない内容について、外部で研修をする機会を与えています。

畜産関係ですと病気の問題等で研修の受入れが難しいところもありますが、可能な範囲で研修生の希望が叶うように対応しています。

今回は、1月から2月にかけて、霧島市にある三宅農場様に5名、長崎県諫早市にある八江農芸様に6名、その他東峰村での農業機械やシイタケの研修にも何名かお世話になりました。

また視察、見学先としては、東区にあるゴミ処理施設や、八女市にある星野茶の文化館などを訪問して、日本のお茶の文化の体験も行いました。

センターでは経験できない様々な体験を通して、多くのヒントやアイデアを考えるよい機会になりました。(豊田)



新研修生入国、対面式

2月2日(月)、2日前にセンターに到着したばかりの令和8年度の研修生12名が参加して、対面式が行われました。

日本に来る前に日本語を全く勉強して来なかった者もいれば、そこそこの会話ができる者もいて、日本語のレベルはバラバラですが、それでも英語も交えての自己紹介をしっかりといただきました。

日本での生活に慣れるまで、言葉の面も含めて大変なことがたくさんあると思いますが、まずは、せんぱい研修生やスタッフの指導を仰ぎながら、徐々に慣れていってもらえたらと思います。

さあ、これから令和8年度の研修生の新たな歴史が始まります。(豊田)



農業研修風景

新しい作業着を身にまとった令和8年度の研修生が、時々農場に出るようになってきました。特に彼らの作業着を見て目につくのは、長靴が新しくキラキラしている事です。

この長靴のキラキラがなくなる頃には、だいぶセンターでの研修に慣れて、笑顔もたくさん出るようになってきます。そして、作業着が色あせてきて、カッパのズボンのすそが破れてくるころに、アクションプランの作成が始まります。センターの1年間は本当に早いです、彼らの成長と共に、作業着の様子も変化していくのです。(豊田)



2026年度研修生入所!日本語クラスが始まりました!

1月30日(東ティモール2名)、

31日(カンボジア・インドネシア2名・マレーシア・モンゴル・パプアニューギニア2名・フィリピン2名・チベット1名)
あわせて12名が入国・入所しました!

ほとんどの研修生がはじめての飛行機に乗り、寒い寒い日本へやってきました。

不安と期待で胸いっぱい、はじめは表情が硬く緊張していました。それでも、先輩研修生と日々生活するうちに、少しずつ笑顔がこぼれるようになりました。

1ヶ月が経った今では、お互いの性格を知り、よく笑うようになりました。

入所の翌日は、オリエンテーションを行い、センターのルールや、日本のマナーを学びました。

お箸の使い方、あいさつのし方、お風呂の入り方など、はじめてのことも多かったと思います。

ここでも、先輩研修生の存在がとても助かりました。

その後、2つのクラスに分かれて、日本語の勉強が始まりました。



規律訓練

Aクラスは5名、国で日本語を学習してきた研修生たちです。現代っ子の研修生で、日本のアニメや歌をよく知っていたり、何かの拍子に「やばい」と口ずさむ人もいます。復習をしながら、日本語を話すことを意識して、授業を進めています。

Bクラスは6名、ひらがなカタカナの読み書きがほぼできずに来た研修生は3名…

それでも、1週間でひらがなを覚え、翌1週間でカタカナをほぼ覚えました! テストをすると伝えていたので、そのテストに向けて、みんなで勉強した様子がわかり、感心しました。その後も続く、言葉を覚えるということに悪戦苦闘しながらも、話せる話題が多くなってきて、とても楽しそうです。

AクラスとBクラス、協力し合って、頑張ってください。(立石考子)



Bクラス かるたとり



Aクラス
見た絵を日本語で
伝えてもらって、描いた絵



Aクラス ひなまつり

インドネシア OB・OG 調査報告



スカブミセンターでの OB 会に参加した西日本 OB・OG 研修生

1月9日(金)～17日(土)にかけての1週間、インドネシアジャワ島、特に研修センターのある西ジャワ州そして、カラングニアル研修センターのある中部ジャワ州を中心に、訪日 OB・OG 研修生の追跡調査を行ってきました。9日に羽田空港を出発し、ジャカルタに到着後スカブミセンターに移動しました。10日～12日までの3日間では、スカブミセンターに OB・OG 研修生が40名近く集まっていたいただき、活動報告などをしていただきました。

また、OB の活動現場の視察では、キノコ栽培やメロン栽培を手広く運営している OB もいて、農業技術のレベルの高さに驚かされました。



ハリッド氏のメロン栽培の様子

そして、過去に実施された植林プロジェクトの視察や、インドネシアのお母さんを対象とした女性生活改善プロジェクトの活動報告を受けるなど、今までにオイスカインドネシアが実施してきた



ジョコ氏のキノコ栽培の様子

様々なプロジェクトの現在の状況を視察させていただき、オイスカインドネシアのスタッフの今日までの献身的な対応、各コミュニティとの積極的な関りなどを拝見し、ここでもオイスカの OB・OG スタッフのレベルの高さと気持ちの強さに感心しました。



CFP 参加校訪問の様子

を見学しても、やはりそこで頑張っている OB スタッフの働き、地元の方からの信頼と活動に対する思いが伝わり、この活動の輪がインドネシア全体に広がれば、多くの課題が解決されると確信

をしました。今回のプロジェクト

を見学しても、やはりそこで頑張っている OB スタッフの働き、地元の方からの信頼と活動に対する思いが伝わり、この活動の輪がインドネシア全体に広がれば、多くの課題が解決されると確信

をしました。今回、約100名の OB・OG 研修生と面会し、彼らの活躍を目の当たりにし、まずは、インドネシア国内にいる OB・OG が情報を共有しながら、それぞれの地域でかかえている課題に対して少しでも貢献できるような取り組みを展開してもらえたら素晴らしいと思います。(豊田)



カラングニアルセンタースタッフ一同



マングローブ植林地訪問(ドマック県)



カラニアルセンターOB 会に参加した OB・OG 研修生

OB 紹介コーナー

今回から、1月に訪問したインドネシア OB・OG 調査で会う事が出来た OB について紹介をさせていただきたいと思えます。最初は、中部ジャワでマングローブ植林プロジェクトの責任者であるプリハルタントさんです。彼は 1992 年の西日本 OB で、その後 1995 年に中部センターの OB 研修生として研修生の指導にあたっていました。

帰国後は、長年にわたりマングローブ植林プロジェクトの責任者として活躍し、こちらが驚くほどの大きな成果をあげています。

今回訪問したプロジェクトは、中部ジャワのドゥマック県というところで、マングローブの植林は 2014 年からはじまり、250ha の植林を実施したとの事でした。

この場所は、海水の海面上昇による影響で、海の近くの村が1メートル以上も海に沈んでしまっている状況で、現地を視察したときは目の前に起こっている状況が全く理解できずに、海に沈んでいる建物を見ながら説明を聞くだけでした。そのような状況の中で、プリハルタント氏は10年以上にわたって、その村のプロジェクトリーダーと共にマングローブの再生に取り組み、現在もそこに住み続けている村人のためにマングローブの森を管理しています。

マングローブの森が再生されることで、海水の浸食が少しでも抑えられ、森で繁殖したカニやエビなどの生き物が村人の生活の糧にもなっています。

インドネシアの人々のために、様々な恩恵を与えているプリハルタント氏の活躍は、まさにオイスカの誇りです。

(豊田)



技能検定

1/29(木)(株)鶴田工業のディカさん、ガバスさんの技能検定(基礎級)が行われ、実技・学科共に合格。引き続き鶴田工業で実習を行う2号技能実習の条件を満たしました。

昨年、5月に入国後、オイスカ中部センター(愛知県)で2ヶ月間過ごし、灼熱の7月に来福&配属。極寒の冬を乗り越えもうすぐ日本の桜を見る「初めて日本」の1年間が経とうとしている2人です。先輩たちのサポートもあり、スッカリ日本に慣れ親しんでいます。これからも日本を楽しんで日本語の勉強と実習に励んでください!

検定合格おめでとうございます!(浦上)



技能実習満了(帰国)

3/2(月)3名の実習生が実習を満了し日本での思い出と沢山のお土産をスーツケースに詰め込んでインドネシアに帰国しました。

(株)オークマ(建具制作)のサラムさんは、帰国日に実習先に挨拶に行った際、大隈社長から日本で一番好きな食べ物を聞かれて即答した「牛丼」を空港に向かう途中の昼食で食べました。牛丼を頬張りながら「超しあわせ〜、何かインドネシアに帰るのが淋しくなった!」と笑わせてくれました。自分がやってみたい事をインドネシアでチャレンジして、また再来年、日本に来るという目標を語って帰国しました。

同じく(株)オークマのシディックさんも機会があれば、また日本に来て頑張りたいとのことでした。

また、藤野牧場(酪農)のソフィアさんは、4年間の実習を頑張りました。最後の1年はケガのため、実習時間も半分ほどになってしまいました。ソフィアさんの地元(ジョグジャカルタ)では、牛乳よりヤギのミルクの方が良く飲まれ、飲むだけではなくスキンケアにも使われて売価も高いそうで帰国後の相手は「牛」ではなく「ヤギ」だそうです。彼女は日本滞在中に「特定技能1号 飲食料品製造試験」に合格しており、次は食品関係の職種の特定技能で日本に来たいという意気込みで帰国しました。(浦上)



みんな! よく頑張った! お疲れさまでした!



マレーシア・サバTV 撮影隊来所

2月6日～8日にかけて、マレーシア・サバTVのスタッフがオイスカの研修現場を撮影に来ました。きっかけは研修生のエンジェルちゃんがSNSに投稿していた「ショートダンス」を見たスタッフがサバ州の農業大臣に面会し、訪日取材を打診。大臣からは「オイスカの活動はよく知っている。是非とも行ってこい。」ということで来日。マレーシアのエンジェル、ファズリナを中心に、センターでの活動(点呼、掃除、食事、農業実習・・・と全体を通して撮影。SNSで5シリーズにわたってアップされています。マレーシアにとどまらず、世界中で視聴されることでしょう。いいきっかけでした。ありがとうございます。(廣瀬)



そば打ち体験

1月20日(火)に蕎麦打ち体験を行いました。

今年も研修生と一緒に育てたソバを福岡そばの会のご指導の下、それぞれの研修生たちがそば粉をこね、伸ばし、打つ。そして試食。

今回2回目の体験とあって前回よりも上手にそして早く作業していました。

麺の湯で時間はおよそ1分間。(麺の太さによって変わる)こしがあって非常に美味しいおそばになり、研修生達も職員もおかわり、おかわり、、、

貴重な体験、そして美味しいおそばを有難うございました!!! (豊田早苗)



草ヶ江公民館お菓子作り

今年度2回目となる草ヶ江公民館との交流(クッキーづくり)が1月24日に行われました。

対象は子供15名ほどとその保護者、総勢20名ほどでセンターからは女性研修が参加。

子供たちと一緒にクッキーを作り試食しました。各班にわかれてそれぞれお国の話などしながら楽しいひと時を過ごさせて頂きました。

研修生の感想…楽しくできました。もっともっと食べたいな～

ということできっと美味しかったのでしょう。楽しい時間をありがとうございました。(豊田早苗)

節分行事体験(恵方巻づくり・豆まき)

2月4日節分に合わせて先輩女性研修生による恵方巻づくり、そしてセンターみんなで豆まきを行いました。



高取公民館/世界の絵本読み聞かせと遊びの交流イベント開催

2月21日(土)10時より、早良区の高取公民館にてオイスカ研修生2名による「絵本読み聞かせとゲームイベント」が開催されました。当日は幅広い学年の小学生に加え、保護者の方々にも多数ご参加いただき、大変賑やかな時間となりました。

前半は「世界の絵本読み聞かせ」の森様による解説の後、マレーシアのファズリナさんがマレー語で、スリランカのインワラさんがシンハラ語で母国の絵本を朗読。子どもたちは初めて耳にする外国語の響きに興味津々でした。

後半はスリランカのお正月遊び「アリヤタ・アハ・タビーマ(象の福笑い)」に挑戦!目隠しをして象の目を貼るユニークな遊びに、会場は大きな笑い声に包まれました。最後はマレーシアで大人気のキッズダンスを全員で踊り、大盛況のうちに終了。地域と世界が笑顔で繋がる素晴らしいひとときとなりました。(大坪)



鹿本農業高校センター訪問

1月22日(木)、熊本県山鹿市にある鹿本農業高校の2年生が来所して、研修生との交流や農業体験を行いました。昨年は、こちらから研修生が6名程学校に出向いて交流を行いましたが、今回は大型バスでこちらまで来ていただいたの交流会ということで、鹿本農業高校の国際交流に対する意識の高さには驚かされましたが、生徒さん達も非常に熱心に研修生との交流を楽しんでいただき、農業体験も含めてお互いに有意義な時間を過ごすことが出来ました。(豊田)



脇山歓送迎会

2月14日(土)、令和8年度の新研修生も交えての、脇山校区自治協議会主催による「歓送迎会」がセンターホールにて開催されました。当日は、地元脇山より40名程の方に参加していただき、せんぱい研修生からのアクションプランの発表や、今回初めて行われた「モルック」というゲームも大いに盛り上がり、新しい研修生も日本語がわからない状況の中でも楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

せんぱい研修生にとっては、脇山の皆様との最後の楽しい思い出として、記憶に残る歓送迎会となりました。



体験農園だより

2月末で令和7年度の秋冬作のステージが終了しました。

令和7年度の秋から冬にかけての天気は、ここ数年毎年の事ではあります、夏の猛暑が長く続き、秋が短く、そして暖冬ではあったでしょうが、寒い冬が来てしまったという感じでした。

間違いなく年間通して野菜の栽培は難しくなっているのですが、令和6年度と比較すると、お米の価格はもちろん今年の方が高かったのですが、野菜の価格は全体的に落ち着いた値段で、どちらかという安値が続いていたように思われます。その原因としてあげられていることが、大きな台風が来なかったということです。もちろん台風は来てほしくないですが、それでもここ最近の水不足の原因も台風が来なかったことが影響していると思います。

さて、令和8年度の体験農園は、どのような野菜が出来るのでしょうか。

異常気象、猛暑に負けない野菜をこれからも作っていきましょう。(豊田)

オイスカチャリティゴルフコンペ開催

第18回「we Love オイスカゴルフコンペ」が伊都ゴルフ倶楽部で開催されました。

当日はお天気も回復していく中、今年のコンペには会員企業を中心に約30社より53名の皆様にご参加をいただきました。研修生は参加者の皆様を玄関でお迎えして、ゴルフコース内で記念撮影などをさせていただき、懇親会では研修修了を迎える研修生のアクションプランの発表をするなど、帰国後の活躍に期待をかけていただきました。また今年の栄えある1位は宮嶋寛太様（西部ガスホールディングス総務広報部総務グループマネージャー）でした。おめでとうございます。チャリティーホール収益金は10万円になり、今回のコンペにもたくさん



の賞品のご提供をいただきました協賛企業の皆様へ厚く御礼申し上げます。この度のご参加誠にありがとうございました。（満川）



国連ハビタット福岡フォーラム参加

昨年より連携をしている国連ハビタット福岡が主催する、「アジア・太平洋の持続可能な都市づくりフォーラム」に参加しました。セミナーには、約20か国より代表者が集い、アクロス福岡にて開催。オイスカからは「人材育成による地域活性化」について職員の池田南海男氏より発表させていただきました。質疑応答では、多くの国から質問が飛び交い、特に、子供の森計画による地域活性化に興味が集まり、オイスカの活動が高く評価されました。今後も国連ハビタット福岡と連携を取り、各国でオイスカの活動が広まる機会を作っていきます。

（廣瀬）



ワンコインサポータープログラム支援金贈呈

令和7年度ワンコインサポータープログラム取り組みに対して、今年度も九州電力(株)様はじめ(株)クラフティア様ならびにたくさんの会員企業を中心に多くの方よりご支援金をいただきました。当日は九州電力よりご来所をいただきグループ企業6社3360名の社員の方からの支援金を宍道総務部長様より西日本研修センターの廣瀬所長へ目録を贈呈いただきました。研修生からは帰国後のアクションプランの発表や令和8年度の入所したばかりの研修生からは緊張した面持ちのなか自己紹介をさせていただくなど、研修修了生の帰国後の活躍と新研修生のこれからの研修生活に対して激励をいただきました。皆様のご支援誠にありがとうございました。(満川)



クラフティア本社にて贈呈式



九州電力より贈呈式
於:西日本研修センター



トヨタモビリティパーツ
九州北部統括支社にて贈呈式

OB 研修生、ジョナタン帰国

昨年度の指導員育成研修のマレーシア、ジョナタンさんが帰国しました。約2年近く西日本での研修を行い、持ち前の明るさと怪力で研修生の良きリーダーとして頑張ってくれました。日本での研修で、農業機械全般を習得し、本当に頼もしい存在でした。食べるのが大好きで、特に「ファミチキ」が大好物で、マレーシアに無いのを残念がっていました。

帰国後は故郷で家族が営む農業を発展させることでしょう。

頑張れジョナタン!!(廣瀬)



西日本研修センター新スタッフ紹介 ★進藤 徳博★



昨年4月に一般企業を定年退職し、12月より西日本研修センターの職員として勤務しております。現在は週3日センターに通い、農業研修生とともに農作業に従事しています。農業は未経験ですが、研修生と同じ目線で汗を流し、共に学ぶ姿勢を大切にしています。有機・無農薬栽培の現場では草取りや虫との闘いもありますが、収穫の喜びや畑で交わす会話が何よりの励みです。研修生は思いやりのある人ばかりで、指導する立場でありながら私自身が学ぶことも多くあります。毎年入所する研修生が一年間で日本語を習得し、将来の夢を胸に母国へ巣立っていく姿は実に清々しく、第二の人生において働く喜びを改めて実感しています。研修生が自立し成長できる力を身につけられるよう、今後も全力で取り組んでまいります。

3月・4月の予定

2日 岩田産業見学	7日 2025 研修修了式
太宰府天満宮訪問	14日～ 2025 研修生帰国
3日 八江農芸視察	17～18日 全国支部会議
4日 脇小アクションプラン発表	4月25日 2026 研修生入所式

ご協力ありがとうございます

【1月・2月の寄贈者】(敬称略)
鹿本農業高校
クレフル
廣崎博子・貴久、餅越すみ子